**HM3 メガウィンド ファイナルエディション−暗闇の中の光**

MB&Fマシーンを非常に独特なものにする要素として、対比に焦点をおいていることが挙げられる：艶のある表面とマットな仕上がり、入念に加工された貴金属とチタニウム、伝統とアバンギャルド、明るい色調とモノクロトーン。これら、力強いコントラストが見る者の目と心を惹きつける。

HM3シリーズを締めくくるメガウィンド ファイナルエディションをもって、MB&Fは「光と闇」によって、究極のコントラストとは何たるものかを示している。ブラックPVDコーティングされた18kゴールドケースと黒クロムメッキ加工が施された22kゴールドとチタニウムのローターの漆黒が、明るく緑色に発色するSuper-LumiNovaによって暗闇に強調される。また、時間表示コーンから常に発せられる光と、ローターの動きに応じてムーブメント上部に明るくライン状に施されたSuper-LumiNovaが見え隠れすることによる、ストロボ発光のような光がコントラストをなしている。

このファイナルエディションのために、MB&Fは最新かつ高性能なSuper-LumiNovaを市場に召喚した。その名はGL C3 Grade A。これは、最も明るくかつ最も純粋な発光材であり、典型的な緑色光によって見分けがつく。Super-LumiNovaには様々な色が存在するが、活性顔料は常に緑で、その他の色は部分的に緑色光を遮蔽する。

MB&Fの中で今日までに最も成功を収めたモデルである、象徴的なHM3シリーズから生まれたメガウィンド ファイナルエディションは、巨大な巻き上げローターと非対称形のケースから突き出た非常に読みやすい時間表示コーンとを兼ね備えており、左のコーンは時間を、右のコーンは分を表示している。まれにみる熟練工が丹精込めて、小さいシリンジを使ってSuper-LumiNovaを適量絞り出しながら、一文字一文字手作業でコーン状の表示に塗布している。

時間表示と分表示を内に収めた三次元彫刻が、見る人を自然に引きつけるものの、その目を虜にするのは入念に手仕上げされたムーブメントの上でゆったりと、しかし断固として振れる巨大なバトル･アックス型の巻き上げローターではないだろうか。だが暗闇の中にこそ、このローターは光を浴びて輝くのである。

メガウィンドを動かしているのはジャン＝マルク･ヴィーダーレヒトの設計による、見事に製作されたHM3のエンジンである。ローターとレギュレーターを文字盤側に配するためにはムーブメントを反転させる必要があった。これを可能にしたのは背部ディスプレーから見える2つの大きなハイテク･セラミック･ベアリングであり、上部で回転する時間表示コーンと分表示コーンに時刻を効率的に伝えている。これほどのサイズと形状のドームを回転させるには、技術的な多くの課題を伴った。時間ドームと分ドームは、理想的な強度重量比になるべく選ばれた、アルミニウムの固い塊から機械加工されているため、必要なエネルギーが最小になるよう抑えられている。

50以上の独立した部品で構成されたケースに詳しく眼を向ければ、縁に傾斜をつけ角度によって光のきらめきを捕らえて反射する魅力的な外観のクリスタル製ローター･ディスプレーや、ネジ山がクローバー型の特注のゴールドネジ、巧みに一体化されたストラップ用のラグ等、そこには入念に考え抜かれた無数のディテールが見受けられる。

**HM3メガウィンド ファイナルエディションは、数字とローター下のバンド部分にSuper-LumiNova が塗布されたブラックPVDコーティング済みの18Kゴールド／チタニウムが、25本のみ限定販売**

**メガウィンド ファイナルエディションの詳細**

**インスピレーションと具現化：**

HM3は反転したムーブメントを備えることにより、ムーブメントの動きが文字盤から見えやすいようになっているが、メガウィンド ファイナルエディションも同じ原則を踏襲している。調和に配慮して製作されたブリッジ、すばやく振動する歯車、ギヤリング、MB&Fの象徴であるバトル･アックス型の自動巻きローター、その全てが文字盤側から見て取れる。これにより、着用者はHM3を構成する芸術と技術を堪能することができ、300以上の高精密部品からなる非常に複雑なマシーンの内部は、見る者を魅了する。

HM3のムーブメントは文字通り反転しているため、22Kゴールドおよびチタニウムの巻き上げローターの力強く優雅な回転と、歯車の高速振動の全景を見ることができる。マキシミリアン・ブッサーとデザイナーのエリック･ジルーによるスケッチとデザインを時計として具現化する使命は、2007年度ジュネーブ時計グランプリで新設されたベスト･ウォッチメーカー･アワードの初代受賞者であるジャン＝マルク･ヴィーダーレヒトに託された。アジェノー社の自らのチームと共にこの課題に取り組んだ彼は、期待以上の結果をもたらした。

**発光材：**

メガウィンド ファイナルエディションの登場まで、HM3のコーン状の側面にSuper-LumiNovaを手作業で塗布する必要があったため、ディスプレーに使用するのは不可能と考えられていた。今日それは不可能ではなくなったものの、Super-LumiNovaを塗布する技術は非常に高度なものである。

まず、時間表示コーンが投影された平面上の数字に手作業でホワイトペイントが施される。その平面にシリコンスタンプが押され、正確な形でホワイトペイントが抜き取られる。その後、職人がスタンプを使って入念に三次元のコーンにホワイトペイントを移すのである。ホワイトペイントは、テンプレートとして使われるだけでなく、慎重に手作業で上層に塗布されるSuper-LumiNovaの反射材としても役立つ。

Super-LumiNovaには様々な色が存在するが、活性顔料は常に緑で、その他の色は部分的に緑色光を覆うため明るさが劣る。HM3メガウィンド ファイナルエディションには、MB&F は、最も純粋で明るい光を放つC3 grade Super-LumiNovaを使用している。

**表示：**

時間表示コーンと分表示コーンはアルミニウムの塊を紙の薄さにまで削って作られた。これらのコーンはゴールドとサファイアクリスタルを真鍮付けした立体的な円錐台の中に収められている。真鍮付けは高温はんだ付け技術であり見た目にも美しく、堅牢な耐水性をも保証する。

**HM3シリーズ：**

HM3は2009年に初めて発表され、それから6年の間にMB&Fの最も人気のあるモデルとなった。ケースとムーブメントの芸術作品は、19もの様々なバリエーションを生み出した：レッドゴールドとホワイトゴールドのHM3 スタークルーザー、レッドゴールドとホワイトゴールドのサイドワインダー、 パープルとピンクのバージョンからなるHM3 リベル、ジュエリーマシーン、 チタニウム、ブラックとレッドのバリエーションからなるHM3 フロッグ Ti、 HM3 チョコレードフロッグ、HM3 ブラックフロッグ（グリーンローター） 、HM3 フロッグ Zr (パープルローター)、HM3 ファイヤーフロッグ、HM3 ポイズンダートフロッグ、ムーンマシーン、レッドゴールドとホワイトゴールドのメガウィンドと、本シリーズを締めくくるメガウィンド ファイナルエディションがある。

**メガローター：**

大きなローターというアイデアとメガウィンドという名前を最初に思いついたのは、フィンランドの独立時計師ステファン･サルパネヴァ（MB&Fのムーンマシーンの共同クリエーター）である。ミステリー･ローターと呼ばれるのは、文字盤上にあるMB&Fの象徴といえるバトル･アックス型ローターが2枚の22Kゴールド製の刃を持っているためである。本来は左右の重量が非対称であるべきローターが外見上左右対称なので、物理の法則に逆らっているように見えるからである。この「ミステリー」は機械加工で片方の刃の裏面を極限まで薄くし、重量を減らすことで実現された。

メガウィンド ファイナルエディションのローターは、日中のステルスと夜間のイルミネーションの層が加えられている。チタニウムと22Kホワイトゴールドのローターには黒クロムメッキ加工が施され、ケースと一体感をなしている。暗闇になると、Super-LumiNovaの厚みのあるラインが、ローターの回転によって見え隠れし、輝く緑の発色から輝く時間表示まで、明るいフラッシュ効果を与えてくれる。

**セラミック･ベアリング：**

普通であれば、時間表示はムーブメントの上部、または文字盤側にある。HM3のムーブメントはその動きが見えるよう反転しているため、動力をムーブメントの底面から時計の一番上にあるコーンへ伝える効率的な解決策が必要となった。宝石にはめ込む従来の歯車ならば複雑で摩擦が生じる歯車装置が必要となり、また、上下を宝石で支える必要がある。それでは、ムーブメントに厚みが出てしまい、時計自体の厚みも増してしまう。

そこでHM3には、宝石にはめ込む従来の歯車の代わりに、直径の大きな（15mm）2つのハイテク･セラミック･ベアリングが採用されている。直径の大きなベアリングを使用することにより摩擦を引き起こす歯車の数が最小限に抑えられ、また超高精密設計と製造により剛性を得たベアリングは一端（底面）を支えるだけでよく、より薄いムーブメントを作ることを可能にした。

**メガウィンド ファイナルエディション 技術仕様**

**ムーブメント：**

アジェノー社のジャン･マーク･ヴィーダーレヒトにより設計された3次元オロロジカル･エンジン、ソーウィンド社製オシレーターおよびギア

バランス振動数28,800振動／時

3つのパーツからなる自動巻きローター：22Kゴールド製の外辺部を持つチタニウム製のハブとアーム（22Kゴールドとチタニウムは、黒クロムメッキ加工）、4ヶ所でリベット留め

時刻表示はセラミック･ボールベアリングを経由して伝えられる

宝石数：36石（全てが機能上のもの）

部品数：270

**機能：**

一方のコーンにC3 Super-LumiNovaが施された時表示

もう一方のコーンにC3 Super-LumiNovaが施された分表示

**ケース：**

ブラックPVDコーティングされた18Kホワイトゴールド／チタニウム製を販売

限定25本、全製品に製造番号表示（例：1 in 25）

ネジ式リューズ

寸法（リューズおよび突起部分を除く）：47mm x 50mm x 17mm

ケース構成部品数：52

**サファイアクリスタル：**

サファイアコーンおよび、両フェイスのディスプレイクリスタル前面部と背部は両面ともに反射防止加工

**ストラップおよびバックル：**

黒の手縫いワニ革およびカスタムデザインの18Kゴールドおよびチタニウム製フォールディングバックル

**メガウィンドを創った「フレンズ」たちファイナルエディション**

コンセプト： マキシミリアン･ブッサー／MB&F

製品デザイン： エリック･ジルー／エリック･ジルー･デザイン･スタジオ

技術･製造管理： セルジュ･クリクノフ／MB&F

R&D：ギョーム･テヴナン、ルーベン・マルティネーズ／MB&F

ムーブメント開発：ジャン＝マルク･ヴィーダーレヒト／アジェノー

ムーブメント製造：ジョルジュ･アウエール／メカウォッチ

ムーブメントベース：ステファノ･マカルーゾ、ラファエル･アッカーマン／ソーウィンド

Super-LumiNova：フレデリック・ティエリー／ モニコ

ローター：デニ･ヴィラール／サンドレ＋メトー･ギャレタン社、ポジティブ・コーティング社

セラミック･ボールベアリング： パトリス･パリエッティ／MPS

ムーブメント組み立て: ディディエ･デュマス、ジョルジュ･べジー、アン・ギテー、エマニュエル・メートル／MB&F

機械加工（インハウス）: アラン・ルマルション／MB&F

アフターセールスサービス: フロリアン・クルバ／MB&F

品質管理: シリル・ファレ／MB&F

ケース、バックル組み立ておよび製造：フィリップ･マルティ、ドミニク･メニエ、ベルトラン･ジュネ／G.Fシャトゥラン、

サファイアコーン：ジャン＝ミシェル・ペラトン、ジェラール・ゲルン（ブローシュSA）

文字盤： モーリツィオ・セルベリエリ／ネイトバー

ストラップ： オリヴィエ･プルノー／カミーユ･フォルネ

化粧箱： イザベル･ヴォドー／ヴォドー、フレデリック･ルジョンドル／レコニ

製造ロジスティクス：デービッド･ラミー、イザベル・オルテガ／MB&F

マーケティング･コミュニケーション： シャリス･ヤディギャログル、ヴィルジニー･メイラン、ジュリエット・デュリュ／ MB&F

M.A.D.ギャラリー：エルベ･エティエンヌ／MB&F

販売：ルイ・アンドレ 、パトリシア･デゥビラール、フィル・オグル／MB&F

グラフィック･デザイン：ダミアン･セイドゥー／MB&F 、アドリアン・シュルツ、ジル・ボンダラズ／Z＋Z

製品撮影：マーテン･ファン･デア･エンデ

ポートレート撮影：レジス･ゴレ／フェデラル

ウェブサイト：ステファン･バレット、ヴィクトール・ロドリゲズ／スモー･インタラクティブ

テキスト：イアン･スケラーン、スティーブン・ロジャーズ／アンダーセディアル

**MB&F－コンセプトラボの誕生**

マクシミリアン・ブッサーが一流腕時計ブランドを経営していた15年間、何よりも喜びと個人としての充足感を感じたのは、才気あふれる独立時計師との協同プロジェクトでした。やがて、自身の理想が形をなしてゆきます。それは、敬意を抱かせ、共に仕事をしたいと思わせるような才能あるエキスパートと協力して、先鋭的なコンセプトの腕時計を小ロットでデザイン・製作する専門の会社を作ること。そしてブッサーの中の企業家精神が、そのアイデアを現実のものにしました。

MB&Fは腕時計メーカーではなく、アートとマイクロエンジニアリングのコンセプトラボであり、独立した時計のエキスパートたちを毎年集めて、先鋭的なHorological Machine（オロロジカルマシーン）をデザイン・製作しています。伝統の足かせとなる部分は排除しながら伝統を尊重することで、MB&Fは伝統と高品質の時計製造と最新鋭のテクノロジー、そしてアバンギャルドな三次元スカルプチャーを融合するきっかけとしての役割を担っています。

2007年、MB&Fは最初のHorological Machine（オロロジカルマシーン）を発表。その彫刻のような三次元ケースと美を追究して仕上げられた機構は、特異とも言えるその後の同社マシーンの基準となった。それは、時刻を告げるためだけのマシーンではなく、自らが時を知るマシーンの誕生だった。続いて2011年には、丸いケースのLegacy Machine（レガシーマシーン）コレクションを世に送り出した。MB&Fの視点から、より伝統に傾倒した作品であり、現代的なオブジェを創り出す上で、時計史上の偉大なイノベーターたちが生み出した複雑な機構をリメイクした、19世紀の優れた時計技術へのオマージュである。MB&Fでは毎年、斬新なHorological Machineと、時計史からインスピレーションを受けたLegacy Machineを交互に発表している。

**経歴－マクシミリアン・ブッサー**

イタリアのミラノで生まれたマクシミリアン・ブッサーは、幼くしてスイスのローザンヌに移り、そこで若き日々を過ごしました。スイス外交官だった父親がムンバイでインド人の母親と出会い、誕生したブッサー。多文化の環境と家庭の中で成長し、人生と仕事に対する多文化的な広い視野を身につけました。

2005年、38歳のブッサーは、世界初のオロロジカルコンセプトブランドを設立。それがMB&F（マクシミリアン・ブッサー＆フレンズ）であり、現在はセルジュ・クリクノフとともに経営しています。ブッサーがMB&Fにかける夢は、共に仕事をしたいと思わせる人々を集めた最高にクリエイティブな小集団で、先鋭的なオロロジカルコンセプトを実現する自身のブランドに育て上げることです。

マクシミリアン・ブッサーの強みは、その企業家精神です。1998年、31歳の若さで、ジュネーブのハリー・ウィンストン・レア・タイムピーシーズの最高経営責任者に抜擢。それから7年間で、戦略や製品、マーケティング、世界販売を展開する一方、デザインと研究開発、製造を社内で統合し、同社を評判高い一流高級時計ブランドに成長させました。その結果、総売上高が900%増加し、極めて競争の激しいこの市場でハリー・ウィンストンをトップクラスにまで押し上げたのです。

マクシミリアン・ブッサーの高級時計に対する愛情は、初めての勤務先であるジャガー・ルクルトで育まれました。経営上層部の一員を7年間務めた1990年代、ジャガー・ルクルトは存在感を増すとともに、その総売上高を10倍に伸ばしました。ブッサーはジャガー・ルクルトで、製品管理・開発からヨーロッパ担当セールス・マーケティングに至る幅広い役割を担いました。

ブッサーは、1991年にスイス連邦工科大学ローザンヌ校を卒業し、マイクロエンジニアリングの修士号を取得しています。